

✠004 聖書は写本で伝えられた

聖書の本文はすべて写本によるもので、聖書の原本というものは存在していない。旧約聖書全書のヘブライ語写本で現存しているものはAD10世紀以前のものはない。断片的なものでは1世紀に属する儀式用に用いられたと思われる「十戒」と申命記6:4以下の古写本が19世紀末にカイロで発見されている。1947年にいわゆる「死海写本」が発見されて、BC1世紀からAD1世紀に属するヘブライ語聖書写本を手にすることができた。最初の洞窟から発見されたものの中には完全なイザヤ書写本が含まれていた。今日までに11の洞窟からエステル記を除くすべての旧約聖書写本が発見された。これらの写本を作成した人々は、この洞窟群に近いクムラン台地に居を構えて、厳しい宗教的戒律生活をしていたユダヤ教の一派の人々である。この発見によって一挙に1,000年も前の写本にさかのぼることができたのである。

中世においては、ソーフェリームと呼ばれる職業的な写本作成家と、マソラと呼ばれる学者たちによって、聖書本文が正確に伝えられるよう努力がなされた。マソラ学派は母音記号を考案し、子音本文にこれを付して聖書の読みを確定した。8世紀後半から10世紀中ごろまで指導的役割を担ったのはベン・アシェル家の人々で、その写本の貴重なものは「カイロ写本」(895年)、「アレppo写本」(930年)、「レニングラード写本」(1008-1010年)の3つである。

ギリシア語写本は大文字写本 Uncial と小文字写本 Minuscule とに大別される。大文字写本はすべて大文字で語と語の切れ目が無く、文様のように美しいが、慣れないと読むのには困難である。小文字写本は草書体で語の区切りもあり読み易い。9世紀を境に、それ以前が大文字写本で、小文字写本はそれ以後に属する。そして3世紀ごろまではパピルスに書かれたものが多く、また巻物 (Scroll) に代わって綴本 (Codex) が多く見られるようになる。

(参考：一般財団法人 日本聖書協会 聖書図書館)